

第2学年国語科学習指導案

1. 教材名 「いるか」(谷川俊太郎作)
2. 目標 音読や頭韻を踏んだ詩を作ることを通して言葉に親しみ、詩を読む楽しさを味わうことができる。
言葉の響きや多義語に興味をもち、声に出して読むことを楽しんでいる。(関心)
友達の音読や作った詩から感じたことを話すことができる。(話すこと)
友達と自分の読み方の違いを聞き比べることができる。(聞くこと)
頭韻を踏んだ詩を作ることができる。(書くこと)
場面の様子について想像を広げながら読むことができる。(読むこと)
「いるか」のもつ言葉の意味や情景を考えながら、工夫して音読することができる。(読むこと)

3. 知的好奇心を引き出すための指導の工夫

(1) 指導の工夫

本教材の詩は、谷川俊太郎作『ことばあそびうた』(福音館書店)の中の1篇である。この詩の特徴は、2つある。1つめは、掛け言葉である。「いるか」という1単語によって、内容が展開し、動物の「海豚」と「居るか、居ないか」の「居るか」を掛け言葉として使っている。アクセントの置き方によって「海豚」になったり、「居るか?」(疑問)になったり、「居た居た」の「居るか!」(確認)になったりする。このような掛け言葉に気づかせることは、同音異義語の非常に多い日本語の特徴に気づかせることでもある。

2つめは、韻である。頭韻も脚韻も両方踏んでいる。頭韻は「い」、脚韻は「～るか」である。行の最初に「い」が並んでいる面白さを感じとらせることができる。

知的好奇心を引き出すについては、本教材の1つめの特徴そのものが、児童の知的好奇心を揺さぶるものと思われる。ひらがなばかりの詩なので、読めることは読めるだろうが、どう読んだらよいかよく分からない、難しい、と感じる児童もいるであろう。「よく分からない詩が読めるようになった、いろんな読み方ができるのだな、いろいろと想像できて面白いな。」「ちょっと難しかった」が、『内容が分かって楽しかった』に変わることによって知的好奇心が引き出されたことになるのではないかと思う。

また、本教材の2つめの特徴に気づかせ、言葉遊び詩を作っていくことは、楽しみながら言葉を豊かにしていくものと思われる。「う」のつく言葉を想起させ、音や意味を考えながら言葉遊び詩を作らせていきたい。

そこで、次のようなことに留意し指導にあたる。

音読を中心に学習を進める。

本時では、教師の範読なしで児童に教材を提示し、まず一人で読ませていきたい。一人で音読、音読対話（ペアーになって音読）を取り入れながら読み方の違いに気づかせていきたい。そして「いるか」の読み方として、動物の「いるか」、「居るかな?」、そのどちらとも読める箇所を全体で確認していく。どちらとも読める箇所は、自分なりの読み方を作っていくようにする。

本時の前半の音読は、内容を読み取るための音読であり、後半は、自分の読みを表現するための音読である。どちらも音読対話を取り入れることによって、1対1で聞き合うことができ、違いに気づかせたり、良さを認め合ったりすることにつながると思われる。

場面の様子についてイメージする。

この詩は、言葉遊び詩なので「海豚」「居るか」の意味を捉えて、リズムカルにテンポよく音読できることは一つの読み方であると思われるが、もう一步深めて表現読みに近づけていきたい。そのためには、詩全体から見えてくる景色や人や動物の様子などを想像させていきたい。自分の詩に対するイメージをはっきり持てる事により、それを声のにせ表現することを楽しむことができると思われる。

(2) 指導計画(全2時間)

第1時 「いるか」の意味を考えて音読し、情景を想像する。(本時)

第2時 詩の特徴に気づかせ、「う」の詩を作り発表する。

4. 本時

(1) 本時の目標

- ・ 声に出して読むことに楽しく取り組むことができる。
- ・ 「いるか」のもつ言葉の意味や、情景を想像しながら、工夫して音読できる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点(評価)
1. いるかについて知っていることを発表する。 2. 一人で音読する。(3回) 3. 隣の児童とペアーになって、音読対話をし、読み方の違いを比べる。 4. 読み方の違いについて気づいたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">読み方の違いで気づいたことは、ありますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いるかいるか」とつなげないで、「いるか」「いるか」と間をとる。 ・ 動物の「いるか」だけでなく「いるかな?」のいるかもある。 ・ はじめの「いるか いるか」の読み方がちがった。 ・ 「いるか」の読み方がよく分からない。 5. 「いるか」の言葉が12回出てくることを確認する。	

「いるか」の3つの読み方（「海豚」「居るか」「どちらでもよい」）の箇所を見つける。

6. 「海豚」なのか「居るか」なのか情景や見えてくる人や動物を想像しながら速さや声の大きさなどに気をつけて音読を工夫する。

全体を読んでどんな様子が見えてきましたか。どんな人が見えてきましたか。

- ・お父さんとぼくで「いるかは、いるかな？」と探している。
- ・昼間いるかを見に行ったのにいなくて、がっかりした。
- ・いるかが、気持ちよさそうに眠っている様子がみえた。

見えてきた様子が分かるように、工夫して音読しましょう。

7. 隣の児童と音読対話をし、良かったところを伝え合う。

8. 学習の振り返りをする。

- ・いるかの詩について興味を持たせる。
- ・児童に自由に読み方を考えさせる。
- ・自分の音読と違うところに気づかせ、違うところに線を引くようにする。

・間のとり方、声の大小、速さなどに目を向ける児童もいると思われるが、「いるか」の読み方の違いに話の中心を絞っていくようにする。「いるか」の読み方の違いが出てこない場合は、1行目の「いるかいるか」の読み方を考えさせ、4通りの読み方ができること捉えさせる。

・「いるか」の言葉を「いるかさん」と「いるかな？」で読み、3つの読み方の箇所を見つけていくようにする。「海豚」を青、「居るかな？」を赤で色分けして音読するときに意識できるようにする。

・「海豚」「居るか」の違いが出るように音読する。どうして、そのように音読したのかイメージさせ、自分の読みを作っていく。

声に出して読むことを楽しんでいる。(関)
情景をイメージし、音読を工夫しようとしている。(読)

・本時の感想をまとめる。